

令和6年度備前県民局地域づくり支援事業 最終報告

実施団体：（公社）玉野市観光協会

担当課：備前県民局地域づくり推進課

＜事業名＞瀬戸内海エリアにおける次世代の人づくり事業

＜事業概要・各主体の役割＞

（事業概要）

本事業は、王子が岳一帯にて、ガイド付きツアーや森と岳の展望レストラン、美術館見学、渋川海岸でのお茶席体験など瀬戸内海エリアを中心としたフィールドワークを、若い世代が参画してコンテンツ造成などを行うことで、地域の良さを再認識するとともに、地域課題解決について考えるきっかけとする事を目的とする。

さらに瀬戸内海エリアに対する愛着や誇りを醸成し、地域を支える次世代人財育成につなげる。

（各主体の役割）

- ・実施団体：事業の企画・実施・参加事業者や団体との調整、事業報告書の作成
- ・担 当 課：事業企画協力、補助金交付、広報協力

＜実施状況＞

1. 事業の名称

瀬戸内海エリアにおける次世代の人づくり事業

2. 実施期間

令和6年4月25日～令和7年2月28日

フィールドワーク実施：令和6年10月27日（日）

3. 対象者

玉野市に関わる若い世代（10代～40代）

4. 実施地域・実施方法

- ・王子が岳(玉野)及び渋川海岸(玉野)を中心とした瀬戸内海エリア
- ・当該エリアを3つの会場に分け、観光資源を活かしたフィールドワークを実施。
(会場間をシャトルバスで繋ぐ)

5. 広報宣伝

- ・玉野市内の3高校（玉野商工高校・玉野高校・玉野光南高校）にチラシを配布
- ・当協会公式WEBサイトおよびSNSで情報を発信
- ・市広報誌「広報たまの」に掲載
- ・山陽新聞に記事を掲載
- ・HISを通じて旅行商品の宣伝・販売を実施

6-1. フィールドワーク概要

フィールドワーク概要	事業ターゲット	学生等参加人数
森と岳のレストラン	市内学生	23名
王子が岳ガイドツアー	Tamano Beads	9名
渋川海岸茶席体験	市内学生	5名
トゥクトゥクによる移動サービス	企業内若手社員	1名
企業協力ブース	企業内若手社員	3名
アートヒルズ王子が岳特別見学	—	—

6-2. フィールドワーク実施内容

1. 森と岳のレストラン

■事業名称 森と岳のレストラン

■参加者数 66名

■協力者 宇野港土地株式会社・belk

■内 容 王子が岳パークセンター横のパラグライダー発着場において、玉野市内や県民局管内の食材を活用したレストランを実施。

■実施状況

■準備段階

「森と岳のレストラン」では、提供するメニューの開発において、宇野港土地株式会社およびbelkと連携し、玉野市、備前市、瀬戸内市など県民局管内の食材を厳選して使用する体制を整えた。

■当日

当日は、玉野市教育委員会が事務局を担当する「たまのスチューデントガイドプログラム」を活用し、市内外の中学生・高校生が受付、案内、配膳などの役割を交代で担当することで、複数の役割を経験する仕組みを構築。来場者との交流を通じ、学生が玉野市の魅力を発信できる場を創出するとともに、学生と市内事業者との間で取り組み方法に関する意見交換の機会も設けた。

■「たまのスチューデントガイドプログラム」参加学生へのアンケート結果

- ・玉野市の魅力について深く知ることができた。
- ・縦割り学年の方と接すること 同年代とはまた違う学びがあったと思います。
- ・接客の仕方を現場で直接学べた
- ・もっと参加人数が増えるようにしてほしい。
- ・“玉野市の特産品を知る機会になった。
- ・いつもはできないような仕事があった。
- ・高校生を参加させるのはその子たちのためにもなるし、人も来やすいと思われます。

■写真 真

■当日の様子



2. 王子が岳ガイドツアー

■事業名称 王子が岳ガイドツアー

■参加者数 20名

■協力団体 学生グループ「Tamano Beads」

■内 容 王子が岳パークセンターからニコニコ岩までのハイキングコースを活用し、ガイドツアーを実施。

■実施状況

■準備段階

令和6年6月から、学生グループ「Tamano Beads」とともにツアーの内容やスケジュールについて協議を開始。円滑な連絡体制を構築するためにLINEグループを設立し、オンライン会議を通じて学生が主体的にアイデアを提案できる環境を整えた。提案されたアイデアの中から、最適なものを学生自らが選び出し、具体的な内容を検討。現地確認を実施しながら、ガイドツアーの詳細な計画を策定した。

■当日

イベント当日は、受付からガイド業務まで「Tamano Beads」が一括して担当。参加希望者の受付を行いツアーを実施。往復約40分のコースを、2～3名の学生が交代でガイドを行った。最初は緊張しながらも経験を積む中でスムーズな運営を実現。参加者からは「初めて知る内容が多く楽しかった」「学生の一生懸命な姿勢が印象的だった」

た」と高い評価を得た。

■「T a m a n o B e a d s」からの達成事項及び改善点・提案報告書

■成果

- ・自分も知識を身につけることができたし、その情報をお客さんに伝えられた。
- ・普段関われないような人と交流できた。
- ・地元の人でも知らないことを案内できて驚いてもらえたのが良かった。
- ・ガイド後にお客さんに褒めてもらえてうれしかった。生の声が聞けた。
- ・皆で協力して積極的に動けた。
- ・玉野市のために尽力されている大人と企画段階から関わることで刺激をもらった。

■反省点

- ・雑談力をもっと身につけたい。
- ・玉野についての知識がもう少しあればなあ。
- ・スチューデントガイド参加者と話せたら良かった。
- ・王子が岳でイベントやってます感もっとほしい。ポスターとか貼ってもよかったのでは？
- ・人が若干少ない印象(特に市外からの人)→紙媒体で市外にも宣伝してみては。
- ・ガイド以外の活動も同時にやってみたかった。
- ・ガイドとお客さんの見た目の区別がない→統一感や目印がほしい。

■写 真

■下見・研修会の様子



■当日の様子



3. 渋川海岸茶席体験

■実施事項 渋川海岸茶席体験

■参加者数 41名

■協力団体 玉野商工高校茶道部、茶道講師

■内 容 玉野商工高校茶道部に協力いただき、渋川海岸で瀬戸内海の景観を眺められる場所で、お茶席を実施。

■実施状況

■準備段階

学校側と綿密な協議を重ね、参加者の募集や当日の流れ、各自の役割分担を詳細に確認した。事前に、茶道講師が中心となって茶のたて方や接客のポイントを指導し、学生たちは十分な練習を行った。また、観光協会職員からは本事業の趣旨と地域の魅力を伝える意義について説明があり、参加者全体の意識を高める取り組みが実施された。

■当日

渋川海岸の松林内に茶席ブースを設置し、来場者の注文を受けながらその場でお茶をたて、配膳を行った。初めて一般のお客様にお茶を提供する学生たちは、緊張しながらも各自の役割を確実に果たし、スムーズな運営を実現した。特に、お茶席のない場所での開催という新鮮さと、瀬戸内海の景観を楽しめる特別な環境が来場者に好評で、「非日常的なロケーションで美味しいお茶を楽しめた」や「学生たちの一生懸命な姿勢が印象的だった」といった声が寄せられた。これにより、学生にとっても地域文化を伝える貴重な経験となった。

■写真

■当日の様子



4. トックトック運行

■実施事項 トックトック運行

■参加者数 事前予約46名、当日乗車55名

■協力団体 株式会社旭タクシー

■内 容 「トックトック」を活用し、玉野市の海岸線を走ることで、自然を体感しながら観光地までの区間を運行。この取り組みは、渋川海岸から王子が岳間の二次交通の課題解決方法の一つとして実証実験を含む。

■実施状況

■準備段階

2023 年の開催実績を踏まえ、詳細なコース設定と運行時間の打合せを行い、安全な運行体制を確立した。また、前回の事例から当日の乗車希望者が多かったことを踏まえ、今回から事前予約制を導入し、運営の円滑化を図った。さらに、若手社員が積極的に準備に参加し、コース下見や安全対策の確認を通じて実践的な経験を積んだ。

■当日

当日は事前予約者への対応を迅速に行い、全員が滞りなく乗車できるよう運営した。空席が生じた時間帯には、当日来場者も受付し、柔軟に対応を実施。若手社員が運行および接客を担当し、運営経験を積む機会となった。体験者からは「瀬戸内海を眺めながら海風を感じられてとても良かった」や「スタッフの対応が丁寧で安心できた」といった高評価の声が寄せられた。

■写真 真

■当日の様子



5. 協力企業ブース

■実施事項 協力企業ブース

■参加者数 120名

■協力団体 おもちゃ王国・（一社）デスティネーションせとうち

■内 容

■おもちゃ王国ブース

缶バッチキットを活用し、その場で景色などのイラストを描いてもらい、イラストをその場で缶バッチにして配布。

■準備段階

おもちゃ王国の若手社員に事業の趣旨を説明し、缶バッチキットを活用したワークショップ実施の方針を決定した。当初は写真印刷を用いる予定だったが、手書きのイラストをその場で作成し、缶バッチにする形式に変更。若手社員が主体的にアイデアを出し合い、参加者が楽しみながら地域への関心を深める仕掛けを考案した。

■当日

想定を上回る参加者が集まり、ワークショップは盛況に実施された。若手社員は丁寧な対応で進行を円滑に行い、参加者と直接コミュニケーションを図りながら地域の魅力を伝えた。その結果、「地域の魅力を伝えられる場を楽しめた」という声が寄せられ、貴重な機会となった。

■（一社）デスティネーションせとうちブース

「e-バイク」の体験試乗会を開催。市が進めている「自転車のまち」としてPRできるように体験会を実施。

■準備段階

本事業の趣旨を共有し、会場周辺が市を代表する景観スポットである点を活かして、「e-バイク」を活用した体験試乗会の実施について協議を行った。

■当日

初めて「e-バイク」を運転する参加者が多かったため、担当者が丁寧なレクチャーを実施し、安全かつ安心できる環境を整えた。参加者の不安を解消しつつ、地域の魅力を伝える役割を果たした結果、「貴重な経験を通じてPRに繋がった」という声が参加事業者から寄せられた。

■写真 真

■当日の様子



おもちゃ王国



おもちゃ王国



e-バイク

6. アートヒルズ王子が岳特別公開

■実施事項 アートヒルズ王子が岳特別公開

■参加者数 65名

■協力団体 たまの観光ボランティアガイドの会 つつじの会、三国工業株式会社

■内容 市内の法人が管理する美術館「アートヒルズ王子が岳」を特別無料公開し、「たまの観光ボランティアガイドつつじの会」のガイド付きで館内を見学。

■実施状況

■準備段階

通常一般公開されていない美術館「アートヒルズ王子が岳」を特別公開するため、ボランティアガイドの会と連携し、館内の清掃、展示物の保護対策、ガイド内容、来場者対応などについて協議を重ね、万全の準備を進めた。

■当日

来場者管理のため事前予約制を導入し、予約者に加え当日参加希望者にも柔軟に対応。3階にわたる展示フロアには「つつじの会」のスタッフを配置し、来場者の質問対応や展示物の案内を実施。初めて美術館を訪れる来場者からは「普段は見られない貴重な美術品を見ることができ、とても面白かった」と好評の声が寄せられ、「つつじの会」のスタッフも地域文化の魅力を再認識する機会となった。

7. その他特記事項

- 実施事項 他市観光協会協力（備前観光協会・瀬戸内市観光協会）
- 販売数 販売24件、売上17,400円
- 協力者 アルバイトスタッフ
- 内 容 備前観光協会・瀬戸内市観光協会の協力により、特産品の販売やパンフレットの配布を実施。

■実施状況

■準備段階

備前観光協会および瀬戸内市観光協会と綿密な協議を行い、観光ブースの設置や効果的なPR方法について検討した。また、他市の観光協会職員との連携を強化し、イベントを通じて地域の魅力を効果的に発信するための計画を策定した。

■当日

当日は、備前市の若手備前焼作家の作品を展示・販売や、備前市・瀬戸内市の観光パンフレットを設置して来場者にPRを実施した。その結果、想定を上回る売上を記録し、市および作家にとって効果的なPRの場となった。さらに、当日の運営内容や参加者の反応は関係者間で共有され、今後のイベント開催や地域PR活動に活かす方針が確認された。

<成果・効果>

実施団体：

（公社）玉野市観光協会は、本事業を通じ、若い世代が積極的にイベント運営やガイド業務に参加することで、自己成長と地域への理解を深める貴重な機会を提供した。さらに、新たな人材の発掘や彼らが活躍できる場の創出につながるとともに、学生間で世代や立場を超えた交流が生まれ、横のつながりが強化される結果となった。中間層（40代～50代）との交流を通じ、市内でのさらなる活躍の場を広げようという意識が醸成され、協力事業者間では、若い世代の育成と地域の未来に向けた共通目標の再認識が進んだ。また、協力団体や事業者からは「地域全体で取り組む意識」が育まれ、参加者や協力者からは「また来たい」「次回も参加したい」といった好意的な声が多く寄せられ、今後のイベントに活かせるテーマや企画の方向性が具体的に構築された。

担当課：

- ・イベント各会場を、当課職員も見学させていただいたが、スタッフとして参加した学生達の顔の表情が非常に明るく、各自が主体的に動いていたのが印象的で、次世代の人づくりにつながる可能性を感じさせるものとなっていた。
- ・下記「課題」欄に記載されていることが解消され、外国人観光客を始めとする玉野市外からの誘客に成功すれば、学生たちの満足度もより向上し、事業効果も高まるものと思われる。

＜課題・今後の方向性＞

（課題）

実施団体：

今回の取り組みの準備段階では、スケジュール管理や細部の調整に不足があった。

また、事前の広報活動が十分でなかったため、イベントの認知度は期待に達しなかった。開催日が他のイベントと重なったこともあり、今後の日程設定はより慎重に検討する必要がある。外国人観光客の誘致については、HIS への依頼だけでは成果が限定的であると認識され、他のアプローチ方法を今後は模索する。実際、外国人観光客からは宇野駅や岡山駅から直接アクセス可能な交通手段をパッケージに含めるよう要望が寄せられている。さらに、事前研修にスチューデントガイド等当日の参加者を対象に加えることで、運営の円滑化がより一層期待できたことから、今後実施する際は、事前ミーティングの機会を設けるなどしていく。

担当課：

- ・ イベント周知を開始するタイミングが少し遅かった。学生とのコミュニケーションの効率化やスケジュール管理等により、効果的なタイミングで広報を行えるようにする必要がある。

（今後の方向性）

実施団体：

各プログラムを通じて、参加者は地域資源の魅力を体験しながら、現場での運営や交流を通じた実践的な経験を得た。森と岳のレストランでは、地元食材を活かしたメニュー開発や、学生が受付・案内・配膳といった多様な業務を経験し、地元事業者との交流を通じて玉野市の魅力を伝える力を養った。また、王子が岳ガイドツアーでは、学生グループ「Tamano Beads」が主体的に企画・運営を行い、初めての試みながらも、現場での対応力やコミュニケーション力の向上が見られた。渋川海岸茶席体験やトウクトック運行、協力企業ブース、アートヒルズ王子が岳の特別公開なども、各プログラムごとに独自の工夫と試行錯誤があり、参加者からは好評と貴重な学びの声が寄せられた。

この成果を踏まえ、観光協会は、持続可能な瀬戸内海エリアの創造に向け、今後も若い世代が地域への愛着と誇りを持ち、主体的に地域課題に取り組む環境づくりに注力する。具体的には、以下の取り組みを推進していく。まず、各プログラムで得られたフィードバックを活かし、事前研修やスチューデントガイドプログラムの充実を図るとともに、運営体制や連絡体制の強化を進め、学生や若手の実践的なスキル向上に努める。さらに、広報活動の強化により、地域イベントの認知度を高め、他イベントとの日程調整をより入念に行うことで、参加機会の拡充を図る。外国人観光客の誘致に関しては、宇野駅や岡山駅からの直接アクセスを実現する交通手段を含むパッケージ商品の再検討を行い、多角的なアプローチを追求する。また、協力企業や地域のクリエイターとの連携を深め、実践的なコンテンツ造成を通じた次世代リーダー育成の場を拡充することで、地域全体の活性化と持続的発展を目指す。これらの取り組みは、

実施団体と担当課が一丸となって推進し、地域の未来を支える人財の育成と瀬戸内海エリアの持続可能な発展に寄与するものとなる。

担当課：

- ・来年度は、瀬戸内国際芸術祭2025関連の事業や業務があり、十分な活動ができるか不安があるため、地域づくり支援事業としての実施を断念したとのことであるが、今後も、観光協会の独自事業として、事業内容を充実させ、継続して取り組んでいていただきたい。
- ・備前県民局としても、情報発信等について、実施団体と連携を図っていきたい。